

実務者研修時間割

実施回数 (日程)	指定規則上の科目名	科目の 時間数	問題数	教育に含むべき事項	教育方法	実施 形態
第 1 回	人間の尊厳と自立	5	10	人間の尊厳と自立	個人の尊厳と憲法 個人の尊厳と介護保険 国際的な取組 人間の尊厳と自立 ノーマライゼーションの意義 プライバシーの保護と守秘義務 これからの社会福祉と権利擁護 アドボカシーとエンパワメント 生活支援Ⅱにおける自己決定の意義 高齢者虐待	通信
	社会の理解Ⅰ	5	10	介護保険制度	介護保険制度成立の背景 介護保険制度の意義 介護保険制度の概要 保険者および被保険者等 保険給付 介護保険制度のサービスの種類と内容 介護保険サービス利用までの流れ サービス提供事業者 介護保険制度の財政 介護保険制度における専門職の役割	通信
	介護の基本Ⅰ	10	20	介護福祉士制度	社会福祉士・介護福祉士法制定の経緯 社会福祉士・介護福祉士制度改正の経緯 介護福祉士の義務 喀痰吸引・経管栄養 介護マンパワーの問題の経緯 介護保険制度下の介護サービスとマンパワー 介護マンパワーの処遇改善問題	通信
				尊厳の保持と自立に向けた介護	尊厳と自立支援 信頼関係構築のための基本的態度 ケアマネジメント アセスメント ICFの視点 リハビリテーションの分類 障害の考えかた	
				介護福祉士の倫理	介護福祉士の職業倫理 倫理と規範 規定されている倫理 抑制・身体拘束 虐待や権利侵害の予防と防止	
	介護過程Ⅰ	20	40	介護過程の基礎知識	介護過程とは 介護過程の目的とは 介護過程の意義 信頼関係の構築 自己決定権の尊重 自立支援	通信

				<p>介護予防(重度化予防)とリスクマネジメント</p> <p>医療との連携</p> <p>介護過程の手順①</p> <p>介護過程の手順②</p> <p>介護過程の手順③</p>	
			介護過程の展開	<p>マズローの基本的欲求</p> <p>ケアマネジメントの機能</p> <p>アセスメント</p> <p>ケアプランの原案の作成</p> <p>サービス担当者会議</p> <p>モニタリング</p> <p>ICFに基づいたケアマネジメント①</p> <p>ICFに基づいたケアマネジメント②</p> <p>ICFに基づいたケアマネジメント③</p> <p>個別援助計画の作成</p> <p>モニタリングの要件</p> <p>モニタリングの法令上の規定</p> <p>モニタリングの頻度</p> <p>モニタリングの多層構造</p> <p>適切なモニタリングの必須条件</p> <p>評価</p>	
			介護過程とチームアプローチ	<p>チームアプローチとは</p> <p>介護保険制度におけるチームアプローチ</p> <p>ケアチームにおけるケアマネジャーの役割</p> <p>介護サービス提供者の役割</p> <p>ケアカンファレンス</p> <p>施設に介護支援専門員が配置されている意義</p> <p>施設サービス計画の作成</p> <p>観察の基礎知識(介護職の状況把握)</p> <p>観察の基礎知識(変化の気づきと確認)</p> <p>観察の基礎知識(発見と記録)</p> <p>記録を書く上での注意点</p> <p>情報伝達の基礎知識①</p> <p>情報伝達の基礎知識②</p>	
社会の理解Ⅱ	30	50	生活と福祉	<p>家族とは</p> <p>家族構成(世帯)の変化</p> <p>老老介護・独居高齢者</p> <p>生活問題とは</p> <p>現代の家族の生活問題</p>	通信
			社会保障制度	<p>社会保障の目的</p> <p>社会保障の方法</p> <p>社会保障の生成</p> <p>社会保障概念の成立</p> <p>福祉国家の成立と発展</p> <p>我が国の社会保障の現状</p> <p>社会保障給付費の現状</p> <p>社会保障給付費の推移</p> <p>諸外国との比較</p> <p>社会福祉体制の整備</p>	

				社会保障給付費の将来推計 社会保障制度改革国民介護の報告書 人口高齢化の現状 人口高齢化と社会保障 社会保障制度の体系と財源 社会保障制度審議会の勧告による社会保障体系① 社会保障制度審議会の勧告による社会保障体系② 社会保障体系の変化① 社会保障体系の変化② 機能別社会保障の体系 年金制度① 年金制度② 医療制度① 医療制度② その他社会福祉制度① その他社会福祉制度② 医療提供体制と医療保険制度 医療保険制度の概要 年金制度の概要 児童福祉の基本理念と児童福祉法 児童手当・児童扶養手当 生活保護法の理念と目的 地域福祉の基本的考え方 近年の住宅政策	
			障害者自立支援制度	障害の種類 障害者基本法の制定と改正 障害者基本計画の位置づけ 支援費制度とその問題点 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ 総合的な自立支援システムの全体像 障害年金	
			介護実践に関連する諸制度	成年後見制度の目的 任意後見制度 地域医療サービス サービス提供主体の多様化	
介護の基本Ⅱ	20	40	介護を必要とする人の生活の理解と支援	加齢に伴う変化とその心理 加齢に伴う変化と自己意識・自己像 高齢期のパーソナリティと適応① 高齢期のパーソナリティと適応② 高齢者とのコミュニケーション 障害のある人の心理に影響を及ぼす3つの要因 障害関連要因 個人的要因 環境的要因 QOLの向上を目指した援助 障害の受容 対象喪失の心理 受容の段階と対応 障害の受容と関係する要因	通信

				<p>介護実践における連携</p> <p>チームアプローチの意義 チーム形成におけるステップ チームアプローチにおける他職種の役割 日常生活につなげるリハビリテーション 高齢者のリハビリテーション 地域リハビリテーション 地域に根ざした支援のために 相談機関 作業療法士、理学療法士など チームアプローチにおける関係機関との連携</p>
				<p>介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>介護リスク サービス提供のあり方 リスクマネジメントの意味と体制 リスクマネジメントとは 事故発生時の対応 介護事故とは 事故の要因 介護事故に関する責任 感染と感染症 感染の成立・感染症の発症 感染管理</p>
				<p>介護福祉士の安全</p> <p>介護者の心身の健康管理 腰痛予防 労働の権利と労働法① 労働の権利と労働法② 労働の権利と労働法③</p>
	小 計	90	170	

第 2 回	発達と老化の理解 I	10	20	老化に伴う心の変化と日常生活 加齢と感情の変化 感覚記憶・短期記憶・長期記憶 加齢と知能の変化 高齢者の性格の分類 加齢と注意・反応の変化 高齢者に特徴的な精神的病態 加齢と老化 人の身体の成り立ち 運動器系 循環器系 呼吸器系 消化器系 泌尿器系 生殖器系 内分泌系 脳神経系 感覚器系 皮膚器官 視覚の変化と日常生活への影響 聴覚の変化と日常生活への影響 嗅覚の変化と日常生活への影響 味覚の変化と日常生活への影響 触覚などの変化と日常生活への影響	通信
	発達と老化の理解 II	20	40	人間の成長・発達 生涯発達とは何か 寿命の考え方 年齢のとらえ方 活動的余命とは 発達の段階 生涯発達と発達課題 ライフステージと発達課題 老いの自覚 老いの受容 役割の変化と獲得 身体疾患の増加 生活範囲の縮小 高齢期と喪失体験 生活機能の低下 健康不安と経済不安 高齢期とうつ病 高齢期とストレス 高齢期の適応パターン サクセスフルエイジング 高齢期のセクシャリティ 主観的幸福感 安楽死と尊厳死 遺された人びととの課題 超高齢期の課題 高齢期を生きるということ 高齢者に多い症状・疾病と留意点 健康チェックとバイタルサイン①	通信

				<p>健康チェックとバイタルサイン②</p> <p>おもな症状とチェックポイント①</p> <p>おもな症状とチェックポイント②</p> <p>生活習慣病</p> <p>耳・鼻・喉の病気</p> <p>皮膚の病気</p> <p>感染による病気</p> <p>高血圧と糖尿病</p> <p>循環器系の病気</p> <p>消化器系の病気</p> <p>代謝・内分泌の病気</p> <p>脳神経系の病気</p> <p>アレルギー・膠原病・免疫の病気</p> <p>血液の病気</p>	
認知症の理解 I	10	20	認知症ケアの理念	<p>認知症ケアの原則</p> <p>認知症ケアの基本的な考え方</p> <p>認知症ケアの歴史</p> <p>疾患別ケアの考え方</p>	通信
			認知症による生活障害、心理・行動の特徴	<p>認知症の人の心理的特徴</p> <p>認知症の人の行動特徴</p> <p>一般的なもの忘れと認知症のもの忘れの違い</p> <p>実行機能の障害</p> <p>認知症の中核症状</p> <p>認知症の行動・心理症状 (BPSD)</p> <p>判断力の障害に対する対応</p> <p>認知症の進行に合わせたケア</p> <p>行動・心理症状の基本的な考え方</p> <p>行動・心理症状 (BPSD) に対する対応</p>	
			認知症の人との関わり・支援の基本	<p>認知症の人の日常生活のとりえ方</p> <p>認知症の人の日常生活介護における留意点</p> <p>家族の世話と専門家のケアの違い</p> <p>家族介護者のできる事</p> <p>認知症をもつ人の声、そして家族の声</p> <p>早期診断・早期発見を進めるために</p>	
障害の理解 I -①	10	20	障害者福祉の理念	<p>ノーマライゼーション</p> <p>インクルージョン</p> <p>国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF)</p> <p>障害者福祉施策の変遷</p>	通信
			障害による生活障害、心理、行動の特徴	<p>障害児・者の生活の実態の理解</p> <p>身体障害とは</p> <p>身体障害者の定義、生活上の困難と心理・行動</p> <p>音声・言語・咀嚼機能障害</p> <p>知的障害者の生活上の困難</p> <p>知的障害者の心理・行動</p> <p>精神障害の定義</p> <p>精神障害者の心理・行動</p> <p>高次脳機能障害の基準</p> <p>高次脳機能障害者の心理・行動</p> <p>発達障害の特徴</p>	

				発達障害児・者の生活上の困難 難病の定義 難病患者の生活上の困難	
			障害児者や家族への関わり・支援の基本	障害者・家族にとっての障害の受容 障害児・者との信頼関係を築く	
コミュニケーション技術	20	40	介護におけるコミュニケーション技術	コミュニケーションの意義と構造 コミュニケーションの要素 コミュニケーションにおける自己理解と他者理解 言語・視覚・聴覚障害とのコミュニケーション 介護者としての家族が抱える問題 家族介護者の心理及び葛藤 家族の不安を理解するために 高齢者、障害児・者の家族支援のためのアセスメント 家族への相談援助活動 社会福祉援助活動の視点 社会福祉援助活動の方法 ソーシャルワークの機能 ソーシャルワークの価値と原則 相談援助のプロセス 相談援助の目的 生活場面面接の活用 生活場面面接の理解を深めるために	通信
			介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	喪失体験と自己効力感 異様者と家族への共感的・受容的な態度 利用者が自分で選択、決定できるようにする 利用者と家族の関係調整 コミュニケーションのしくみ アスペルガー障害の症状 失語症の症状 言語障害のある利用者への対応 高齢難聴者のコミュニケーション支援の方法 発達障害児のコミュニケーション支援 障害者のコミュニケーション手段 認知症の人に残る心理機能とコミュニケーション能力 内的世界の理解と尊重	
			介護におけるチームのコミュニケーション	ケアマネジメントとチームケア チームケアとモニタリング 報告と記録 ケアチームとサービス担当者会議 記録の目的と意義 記録の種類 記録の書き方 記録の保護と管理 報告について ケアカンファレンス	
小計	70	140			

第 3 回	生活支援技術 I	20	40	生活支援とICF	ICFとは 生活支援の実践構造 ICFを取り入れた生活支援技術 ICFの視点に基づくアセスメント	通信
				ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスの意義 介護者の姿勢と動作の安定 ボディメカニクス技術の必要性 姿勢、運動を支える身体 介護におけるボディメカニクスの活用 利用者自身のボディメカニクスの応用	
				介護の基本技術と福祉用具の活用	移動・移乗のもつ意味 外出のもつ意味 福祉用具の活用にあたって 福祉用具とその活用方法① 福祉用具とその活用方法② 食事のもつ意味 自立支援のための調理の支援 入浴のもつ意味 入浴援助のポイント 入浴介助に関連する福祉用具 排泄のもつ意味 排泄の介護 排泄行動の機能と自立に向けたアセスメント 排泄のための用具 清潔保持の基本 清潔保持の方法と援助のポイント 衣類の着脱のもつ意味 衣類の着脱介助のポイント 整容の意味 整容行動の仕組み 口腔ケアのもつ意味 口腔ケアの意義 体位変換用具と体位保持用具の活用方法 コミュニケーションに関する用具とその活用方法 家事援助技術の基本 家事行為と自立支援	
	環境整備	福祉用具・住宅改修の意義 居住環境整備のとらえ方 事故への予防策 空調の管理				
	生活支援技術 II	30	50	利用者の心身の状況に合わせた介護と(福祉用具の活用・環境整備)	移動について 外出の介護 外出時の介護ポイント 移動介助について① 移動介助について② 車いす移動の介護 移動介護の一般的な原則 肢体不自由車の歩行介助 移動・移乗空間	通信

				移乗介助の注意点 補助具・寝具の条件 移乗介助の具体的な方法 自力による移乗 介助による移乗 食事をするための機能 咀嚼機能 心身の状態に応じた食事介助 視覚障害がある場合 食事直前の介護のポイント 食後のポイント 入浴の環境と介助(片まひ) 入浴の環境と介助(関節障害) 入浴の環境と介助(リフト浴) 入浴の環境と介助(機械浴) 入浴介助のポイント 一般的な入浴介助の手順 全身清拭の手順 足浴 洗髪 洗髪介護のポイント 自立に向けたアセスメントと排泄の介助① 自立に向けたアセスメントと排泄の介助② 衣類の着脱介助 関節に障害がある場合の介助 目・鼻・耳・爪の清潔① 目・鼻・耳・爪の清潔② 摂食機能を高めるための運動 認知症の人の口腔ケア 口腔ケアの実際① 口腔ケアの実際② 寝具の整え方のもつ意味 寝具の衛生管理① 寝具の衛生管理② 体位・姿勢介護のポイント 体位・姿勢介助をするときの注意点 看取り介護の目的 看取り介護の進め方 死後のケア グリーフケア 介護の役割と医療職との連携	
認知症の理解 II	20	40	医学的側面から見た認知症の理解	認知症の診断基準① 認知症の診断基準② もの忘れと認知症との違い 認知症の初期症状 認知症の診察 認知症の診断① 認知症の診断② 認知症の種類と原因	通信

				<p>アルツハイマー型認知症の原因</p> <p>アルツハイマー型認知症の症状と経過</p> <p>アルツハイマー型認知症の危険因子</p> <p>血管性認知症の症状の特徴</p> <p>血管性認知症の原因</p> <p>アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い</p> <p>レビー小体認知症</p> <p>前頭・側頭型認知症</p> <p>若年性認知症</p> <p>その他の認知症</p> <p>中核症状と薬物療法</p> <p>認知症の人に対する非薬物療法</p>	
			認知症の人や家族への支援の実際	<p>認知症の人のケアの進め方</p> <p>アセスメントのための情報</p> <p>観察のポイント</p> <p>生活環境の重要性</p> <p>解りやすい住環境</p> <p>人的環境</p> <p>日常生活における社会参加(社会的活動)</p> <p>プライドを傷つけない配慮</p> <p>介護保険法に位置づけられた地域包括ケアの考え方</p> <p>地域包括支援ネットワークとは</p> <p>地域包括支援センターの役割</p> <p>地域包括ケアの推進と地域ケア会議</p> <p>厚労省認知症施策対策検討プロジェクトチーム報告書</p> <p>認知症対策等総合支援事業の動向</p> <p>インフォーマルサポートの定義と現状</p> <p>インフォーマルサポート提供者の特徴と資源活用の留意点</p> <p>チームで行う多角的なアセスメントと初期段階でのチームメンバーの関わり</p> <p>チームアプローチの長所と短所</p> <p>効果的な送致のための留意点</p> <p>機関間連携で生じる葛藤解決を行う場合のリーダーに求められるスキル</p>	
障害の理解 II	20	40	医学的側面から見た障害の理解	<p>視覚障害の原因となるおもな疾病</p> <p>視覚障害等級</p> <p>視覚障害者の支援</p> <p>聴覚障害の原因</p> <p>聴覚障害の種類</p> <p>聴覚障害者の支援</p> <p>平衡機能障害の原因</p> <p>音声・言語障害の種類</p> <p>音声・言語障害者の支援</p> <p>咀嚼障害の原因・種類</p> <p>肢体不自由の原因</p> <p>肢体不自由の種類</p> <p>内部障害の原因</p> <p>内部障害の種類、支援①</p> <p>内部障害の種類、支援②</p> <p>内部障害の種類、支援③</p> <p>知的障害の原因</p>	通信

				知的障害の症状 知的障害児の支援 ダウン症の分類 ダウン症児の支援 精神障害の原因 精神障害の種類、支援① 精神障害の種類、支援② 精神障害の種類、支援③ 精神障害の種類、支援④ 精神障害者等級 高次脳機能障害の原因 高次脳機能障害の種類 高次脳機能障害者の支援 発達障害の原因 広汎性発達障害 学習障害 難病の原因 おもな難病 難病患者の支援	
			障害児・者への支援の実際	障害者の相談支援体系 介護過程の理解 支援協議会 保健・医療職種との連携	通信
こころからだのしくみ I	20	40	介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解	なぜ移動するのか 移動のしくみ 杖や歩行器を使って移動する 移乗に関する用具での介助 移動に影響を与える要因 食べるという行為 栄養素やエネルギー 水分 食欲 咀嚼・嚥下のメカニズム 咀嚼・嚥下障害 咀嚼力低下への対応 消化・吸収の仕組み 清潔保持の意味 発汗の仕組み 入浴の効用とリスク まひ・拘縮がある場合の入浴 入浴をするときの身体的条件① 入浴をするときの身体的条件② 入浴方法の選択 褥瘡の発生要因 褥瘡の予防対策 排泄の意味 清浄な排泄のしくみ 尿失禁 衣服を着る身体的・生理的意味	通信

				着脱の意義 着脱行動のしくみ 着脱の介護 整容の意味 整容行動のしくみ 身だしなみとしての整容行動 口腔のしくみと働き 口腔ケアの基本 睡眠の意味 睡眠のしくみ 睡眠の状態と睡眠障害の原因把握 安眠への支援 寝具の整え方	
小	計	110	210		

第 4 回	こころからだのしくみⅡ	60	50	人間の心理	<p>基本的欲求(動機)</p> <p>生理的欲求の誘因と動員</p> <p>社会的動機</p> <p>感情と情動</p> <p>愛着理論と自我同一性の獲得</p> <p>障害受容と生きがい</p> <p>欲求不満と葛藤</p> <p>欲求不満への対応</p> <p>学習と思考</p> <p>思考力と問題解決</p> <p>知覚と錯覚</p> <p>記憶と知能</p> <p>知能と知能テスト</p> <p>性格と人格</p> <p>こころを解き明かす心理学</p>	通信
				<p>人体の構造と機能</p>	<p>生命のしくみ</p> <p>消化器系</p> <p>呼吸器系</p> <p>循環器系</p> <p>泌尿器系</p> <p>生殖器系</p> <p>内分泌系</p> <p>免疫系</p> <p>骨格系の構造と機能</p> <p>筋系の構造と機能</p> <p>神経系の構造と機能</p> <p>感覚器系の構造と機能</p> <p>ボディメカニクスの基本的な考え方</p> <p>支持基底面を広くとる</p> <p>重心</p> <p>テコの原理の応用</p> <p>姿勢や動作に関連した身体の動き</p>	
				<p>身体の仕組み、心理、認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント、観察のポイント、介護・連携等の留意点</p>	<p>介護技術が必要なわけ</p> <p>介護者が心得ておくこと</p> <p>移動・移乗の目標・原則・留意点</p> <p>端座位から車いすの移乗</p> <p>車いす移動</p> <p>食事の姿勢</p> <p>食事の介助</p> <p>フットケア</p> <p>排泄の目標・原則・留意点</p> <p>日常生活と排泄の機能</p> <p>ベッドでの陰部洗淨</p> <p>整容・衣服の着脱</p> <p>なぜ口腔ケアが必要か</p> <p>口腔ケアの介助</p> <p>終末期の理解</p> <p>色々な病気の終末期</p> <p>心身の機能変化と終末期のケア</p>	

				家族へのケア	
介護過程Ⅱ	25	40	介護過程の展開の実際	インテークに必要な知識・観点 インテークの情報源① インテークの情報源② 情報収集の手段 利用者本人からの情報収集 フェイスシート・アセスメントシート 主治医意見書について 心身の状態に関する意見 情報の取捨選択① 情報の取捨選択② 多角的な情報収集 先入観で物事を捉えない 情報を利用するための知識・経験則① 情報を利用するための知識・経験則② 情報を利用するための知識・経験則③ 情報を利用するための知識・経験則④ 居宅サービス計画書第1表① 居宅サービス計画書第1表② 居宅サービス計画書第1表③ 居宅サービス計画書第1表④ 居宅サービス計画書第1表⑤ 居宅サービス計画書第1表⑥ 居宅サービス計画書第2表① 居宅サービス計画書第2表② 居宅サービス計画書第2表③ 居宅サービス計画書第2表④ 居宅サービス計画書第2表⑤ 居宅サービス計画書第3表 居宅サービス計画書第4表 個別援助計画の実践 自立支援と尊厳の保持 事故防止と感染症予防 送迎時の安全対策 入浴介助 食事介助 第5表居宅介護支援経過① 第5表居宅介護支援経過② 介護計画の見直し	通信
小計	85	90			

第 5 回	医療的ケア	50	50	<p>医療的ケア実施の基礎</p> <p>個人の尊厳と自立</p> <p>個人情報保護</p> <p>利用者・家族に対する説明と同意</p> <p>利用者・家族の気持ちの理解</p> <p>医療保険制度</p> <p>在宅医療・訪問看護</p> <p>医行為に関する法律</p> <p>チーム医療の推進とその構成メンバー</p> <p>介護と看護の連携</p> <p>安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性</p> <p>リスクマネジメントの考え方と枠組み</p> <p>救命の連鎖</p> <p>実際の救急蘇生の流れ</p> <p>感染経路の遮断</p> <p>スタンダードプリコーション</p> <p>介護職員の健康管理</p> <p>手袋やガウンの装着</p> <p>針や血液のついた手袋の処理</p> <p>消毒と滅菌等の用語とその意味について</p> <p>平常状態とは</p> <p>健康状態を知る項目</p> <p>急変時の対応と事前準備</p> <p>喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</p> <p>呼吸のしくみとはたらき</p> <p>いつもと違う呼吸状態</p> <p>喀痰吸引とは</p> <p>人工呼吸器が必要な状態</p> <p>侵襲的人工呼吸療法の場合の気管カニューレ内部の吸引</p> <p>子どもの吸引について</p> <p>吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>呼吸器系の感染と予防</p> <p>喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認</p> <p>急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ清潔の保持</p> <p>吸引の技術と留意点</p> <p>喀痰吸引に伴うケア</p> <p>報告及び記録</p> <p>経管栄養(基礎的知識・実施手順)</p> <p>消化器系のしくみと働き</p> <p>消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>経管栄養法とは</p> <p>注入する内容に関する知識</p> <p>経管栄養実施上の留意点</p> <p>子どもの経管栄養について</p> <p>経管栄養に関する感染と予防</p> <p>経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持</p> <p>経管栄養の技術と留意点</p> <p>経管栄養に必要なケア</p>	通信
-------	-------	----	----	---	----

				報告および記録	
小	計	50	50		
合	計	530	830		

第 1 回	介護過程Ⅲ	45	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	介護過程Ⅰの復習	通学				
	介護過程Ⅲ			介護過程Ⅱの復習					
	介護過程Ⅲ			関係する資料から利用者情報を読み解く					
	介護過程Ⅲ			ケアプラン(1表～5表)の読み取り方					
	介護過程Ⅲ			事例を基にケアプランから利用者情報を読み解く					
	介護過程Ⅲ			インテーク・アセスメントの方法					
	介護過程Ⅲ			アセスメント情報から利用者像を把握するグループワーク		通学			
	介護過程Ⅲ			フェイスシート・アセスメントシートの作成					
第 2 回	介護過程Ⅲ	45	介護技術の原理原則を修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する	目標設定の視点と方法	通学				
	介護過程Ⅲ			介護計画書・手順書の作成					
	介護過程Ⅲ			ボディメカニクスの原理・原則					
	介護過程Ⅲ			介護現場でのボディメカニクス					
	介護過程Ⅲ			寝具の整え方(シーツの整え方)					
	介護過程Ⅲ			体位・体位変換(床上での水平・上方移動含む)					
	介護過程Ⅲ			移乗の介助(一般的な移乗介助)					
	介護過程Ⅲ			移乗の介助(体格差のある場合)(スライディングボード含む)					
第 3 回	介護過程Ⅲ	45	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	移乗の介助(福祉機器を使用した移乗)(ホイスト・リフト等)	通学				
	介護過程Ⅲ			排泄の介助(ポータブルトイレ)					
	介護過程Ⅲ			排泄の介助(差し込み便器・尿器)					
	介護過程Ⅲ			排泄の介助(おむつ交換・パッド含む)					
	介護過程Ⅲ			移動の介助(歩行介助・杖歩行介助)					
	介護過程Ⅲ			移動の介助(車いす介助)					
	介護過程Ⅲ			着脱の介助(椅座位・端座位)					
	介護過程Ⅲ			着脱の介助(臥位)					
第 4 回	介護過程Ⅲ	45	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	食事の介助(椅座位・端座位・半座位)	通学				
	介護過程Ⅲ			食事の介助(臥位)					
	介護過程Ⅲ			口腔清潔の介助					
	介護過程Ⅲ			入浴の介助					
	介護過程Ⅲ			入浴・清潔の介助(足浴・腕部清拭)					
	介護過程Ⅲ			清潔の介助(全身清拭)					
	介護過程Ⅲ			介護福祉士の実技試験とキャリア段位制度					
	介護過程Ⅲ			「起居→排泄」の介助、評価(例)					
第 5 回	介護過程Ⅲ	45	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	「臥位→入浴(清拭)」(例)	通学				
	介護過程Ⅲ			「起居→通所施設への送り出し」の介助、評価(例)					
	介護過程Ⅲ			「椅座位→口腔ケア」の介助、評価(例)					
	介護過程Ⅲ			「椅座位→食事」の介助、評価(例)					
	介護過程Ⅲ			「椅座位→就寝」の介助、評価(例)					
	介護過程Ⅲ			「おむつ交換→バイタルチェック」の介助、評価(例)					
	第 6 回			介護過程Ⅲ		45	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	介護現場でのヒヤリハット、事故と対応	通学
				介護過程Ⅲ				ヒヤリハット報告書の作成	
介護過程Ⅲ		モニタリングの視点							
介護過程Ⅲ		6ヶ月後の事例・ケアプラン第5表から経過を観察する視点(グループワーク)、モニタリング報告書を作成する							
介護過程Ⅲ		目標の達成度、利用者の満足度等についてロールプレイ							
介護過程Ⅲ		再計画の目標設定(今後の新たな課題)							
介護過程Ⅲ		【試験】							
介護過程Ⅲ		知識等の修得度の評価【試験】							
第 7 回	医療的ケア	13	演習	口腔内の喀痰吸引(通常手順)	通学				
	医療的ケア			口腔内の喀痰吸引(通常手順)					
	医療的ケア			口腔内の喀痰吸引(レスピレーター装着者)					
	医療的ケア			鼻腔内の喀痰吸引(通常手順)					

	医療的ケア			鼻腔内の喀痰吸引(レスピレーター装着者)	
	医療的ケア			気管カニューレ内部の喀痰吸引(通常手順)	
第 8 回	医療的ケア		演習	気管カニューレ内部の喀痰吸引(レスピレーター装着者)	通学
	医療的ケア			経管栄養【胃ろう・腸ろう】(滴下)	
	医療的ケア			経管栄養【胃ろう・腸ろう】(滴下)	
	医療的ケア			経管栄養【胃ろう・腸ろう】(半固形)	
	医療的ケア			経管栄養【経鼻経管栄養】	
	医療的ケア			経管栄養【経鼻経管栄養】	
	医療的ケア			救急蘇生法	
計		463		1710	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">人間の尊厳と自立</p>		授業の種類 <p style="text-align: center;">通信学習(講義)</p>	
授業の回数 <p style="text-align: center;">1回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">5時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">6ヶ月</p>	必修・選択 <p style="text-align: center;">必修</p>
授業の目的・ねらい <u>人間の尊厳と自立について理解を深める</u>			
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)			
授業終了時の達成課題 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解させる			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数 <p style="text-align: center;">1</p>	学習テーマ <p style="text-align: center;">人間の尊厳と自立</p>	学習内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳の保持とは、自立・自律についてどのような状態を指すのか、また尊厳について考えさせる ・尊厳を支えるノーマライゼーションとしてバリアフリーやユニバーサルデザイン、またその成り立ちについて理解させる ・利用者のプライバシーの保護について守秘義務及び生活をさらけ出すことの羞恥とうについて理解させる ・権利擁護等として人権、アドボカシー、エンパワメント、自己決定権と高齢者虐待について理解させる ・介護の基本的な理念について利用者本位、自立支援・自己決定の視点から理解させる 	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 1巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題10問のうち正答数7問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">社会の理解 I</p>		授業の種類 <p style="text-align: center;">通信学習(講義)</p>	
授業の回数 <p style="text-align: center;">1回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">5時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">6ヶ月</p>	必修・選択 <p style="text-align: center;">必修</p>
授業の目的・ねらい <u>介護保険制度の理解</u>			
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)			
授業終了時の達成課題 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数 <p style="text-align: center;">1</p>	学習テーマ <p style="text-align: center;">介護保険制度</p>	学習内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保健制度の体系と目的について創設までの経緯、制度の意義、制度の概要、保険給付等について理解させる ・介護保健制度のサービスの種類と内容について、介護給付・予防給付の別に理解を深める ・介護保険サービスの利用までの流れについて申請からサービスの利用までの流れを理解させる ・介護保健制度の利用者負担第一号保険者・第二号保険者・国庫・等道府県・市町村の各々の負担を理解させる ・介護保健制度における専門職の役割について介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士等関連職種を理解させる 	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 1巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題10問のうち正答数7問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>生活と福祉</u></p> <p><u>社会保障制度</u></p> <p><u>障害者自立支援制度</u></p> <p><u>介護実践に関連する諸制度</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</p> <p>社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。</p> <p>障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p> <p>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との生活と福祉について家族構成の変容、家族の機能、老老・独居高齢者等の家族形態等について理解させる ・地域での生活と福祉について、都市部・農山村部、地域社会の構造と福祉について理解を深める ・社会との関連と福祉について、地域支援事業、地域包括ケアシステムを中心としたケアの総枠を理解させる 	
2	社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の発達についてその意義・目的・範囲、世界の歴史、我が国の歴史について理解させる ・社会保障制度の体系と財源について医療・年金・児童福祉・生活保護・地域福祉・居宅施策等について理解させる 	
3	障害者自立支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法の目的について障害者福祉施策の歴史、障害者基本法、自立支援法、総合支援法に沿って理解させる ・障害者総合支援法の体系について、身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神障害者福祉、難病者について理解させる ・障害者総合支援法におけるサービスの種類と内容について、自立支援給付、介護給付、訓練等給付等の理解を深める ・障害者総合支援法の利用までの流れについて介護給付費の申請から支給量の決定、不服の申立まで理解させる ・障害者総合支援法の利用者負担について介護給付費、自立支援医療費の理解を深める ・障害者総合支援法における専門職の役割等について、身体障害者福祉司、身体障害者相談員等について理解させる ・障害者総合支援法の具体的・客観的内容の助言方法について、都道府県・市町村、福祉事務所等の役割を理解させる 	
4	介護実践に関連する諸制度	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度について目的や保佐・補助の役割や職務の権限等について理解させる 	

・生活保護制度について、その理念・目的・基本原理と原則、保護の種類と方法等について理解させる
・保健医療サービス等について、地域医療サービス、地域保健サービス、地域福祉サービス等について理解させる

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
介護福祉士実務者研修テキスト 1巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

選択式問題50問のうち正答数35問以上で合格とする

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>介護福祉士制度</u></p> <p><u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u></p> <p><u>介護福祉士の倫理</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。</p> <p>個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</p> <p>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	介護福祉士制度	<p>介護福祉士制度について、社会福祉士・介護福祉士法設立の経緯からその改正内容、資格取得のルート等を理解させる</p> <p>介護福祉士制度の定義について、介護福祉士の義務、介護人材の将来見通し、キャリアパスの全体像等について理解させる</p> <p>介護福祉士制度の業務範囲、業務内容について、認定介護福祉士、喀痰吸引・経管栄養等の範囲を理解させる</p>	
2	尊厳の保持と自立に向けた介護	<p>尊厳の保持と自立に向けた介護展開のプロセスについて、尊厳と自立支援、信頼関係構築のための基本的態度等について理解させる</p> <p>個別ケアの考えについて、共感的理解とコミュニケーションや相談援助、カウンセリングマインド等について理解させる</p> <p>ICFについてケアマネジメント、アセスメントの要である事を理解させる</p> <p>リハビリテーションについて、その歴史、理念、定義、目的、領域、機能回復訓練、社会復帰等の理解を深める</p>	
3	介護福祉士の倫理	<p>介護福祉士の職業倫理について、介護サービスの公共性や専門職としての倫理を理解させる</p> <p>身体拘束の禁止について、倫理と規範、抑制や身体拘束の弊害等について理解させる</p> <p>虐待防止について、高齢者虐待防止法に基づき、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト等虐待の定義を理解させる</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p style="text-align: center;">介護福祉士実務者研修テキスト 2巻</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p style="text-align: center;">選択式問題20問のうち正答数14問以上で履修と見なす</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u></p> <p><u>介護実践における連携</u></p> <p><u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u></p> <p><u>介護福祉士の安全</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</p> <p>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。</p> <p>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。</p> <p>介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	介護を必要とする人の生活の理解と支援	介護を必要とする高齢者・障害者の生活の理解についてパーソナリティを中心に心理に配慮する意味を理解させる 介護を必要とする高齢者・障害者のニーズについて、老化、障害が及ぼす身体的・心理的ニーズについて理解させる 介護を必要とする高齢者・障害者の支援の課題について加齢・障害・疾病・日常生活の別に理解させる	
2	介護実践における連携	チームアプローチについてその形態、その実際、チームケアとそのメンバーについて理解させる チームアプローチにおける他職種の役割について、医療・看護・リハビリテーション・ケアマネ等の役割を理解させる チームアプローチにおける関係機関の役割について、福祉事務所・地域包括支援センター等の役割を理解させる チームアプローチにおける多職種との連携について、医師・看護職・福祉事務所等との連携について理解させる	
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクについて、介護リスク、要支援・要介護予防、生活上のリスク、サービス提供の在り方について理解させる 安全確保について、安全管理体制づくり、リスクマネジメント、リスクの種類、その対応について理解させる 事故防止について、介護事故の要因、介護事故の実態、具体的な事故予防等について理解させる 事故防止について、予防マニュアルの整備、介護自己に対する責任、介護事故の状況等について理解させる 感染管理について感染症、感染源、感染ルート、感染予防、洗浄・消毒・滅菌等について理解させる	

<p>4 介護福祉士の安全</p>	<p>感染管理について、内因性感染、MRSA、かぜ、インフルエンザ、結核、疥癬等病原菌の種類を理解させる 介護者の心身の健康管理について感染源にならないための健康管理、ストレスマネジメントについて理解させる 労働安全対策(重量物の取り扱いについて)、先般出された通知に基づき持ち上げない介護の徹底を理解させる</p>
<p>[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 2巻</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす</p>

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>介護におけるコミュニケーション技術</p> <p>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</p> <p>介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。</p> <p>援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。</p> <p>利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</p> <p>状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	介護におけるコミュニケーション技術	利用者とのコミュニケーションについて、バーバル・ノンバーバル、アセスメント、ストローク等について理解させる 家族とのコミュニケーションについて、家族の理解、家族のストレス、家族への相互理解等について理解を深める 相談援助技術について、ソーシャルワークの機能と基本原則、ケースワーク、ケアマネジメント等について理解させる	
2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	コミュニケーションとニーズについて、利用者・家族、利用者と家族のニーズの統合等を理解させる コミュニケーションと意欲について、利用者に変革をもたらすコミュニケーション等について理解させる 利用者の感覚・運動・認知に応じたコミュニケーションについて、知的障害・精神障害・言語障害等について理解させる	
3	介護におけるチームのコミュニケーション	チームにおけるコミュニケーションについて、ケアマネジメントチーム、同職種・多職種、施設内等を例に理解させる 情報の共有化について、報告と記録、情報把握と観察、変化の記録、共有化の手段等について理解させる 記録について、その目的と意義、種類、書き方、記録の保管と管理等について理解させる 報告(相談)について、申し送り、連絡、相談等の方法と手段を理解させる 会議について、サービス担当者会議(ケアカンファレンス)事例検討会等について理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 3巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 通信学習(講義)													
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月	必修・選択 必修												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>生活支援とICF</u></p> <p><u>ボディメカニクスの活用</u></p> <p><u>介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</u></p> <p><u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u></p>															
<p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p>															
<p>授業終了時の達成課題</p> <p>生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</p> <p>ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</p> <p>介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。</p> <p>居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>															
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">学習テーマ</th> <th style="text-align: center;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>生活支援とICF</td> <td>生活支援におけるICFの意義について、介護の意義と目的、定義と業務、介護実践におけるICF等について理解させる 生活支援におけるICFの役割について、ICFを取り入れた生活支援技術援助、アセスメントについて理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>ボディメカニクスの活用</td> <td>ボディメカニクスの原則について、ボディメカニクスの7原則、介護者の姿勢と安定について理解させる ボディメカニクスを活用した介護について、ボディメカニクス技術の必要性、姿勢・運動を支える身体等について理解させる ボディメカニクスの実践事例について、介護におけるボディメカニクスの応用等について理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>介護の基本技術と福祉用具の活用</td> <td>移動・移乗介助の基本について、移動・移乗の持つ意味、介助のポイント、外出の持つ意味等を理解させる 移動・移乗介助の基本と関連する福祉用具について、リフト・簡易スロープ・トランスファーボード等について理解させる 食事介助の基本について、食事の持つ意味・食事の持つ身体的側面・精神的側面、栄養等について理解させる 食事介助の基本と関連する福祉用具について、ピンセットタイプ・スプーン・ストロー等関連する用具を理解させる 入浴介助の基本について、入浴の持つ意味、その身体的・肉体的側面、皮膚・筋肉の緊張緩和等について理解させる 入浴介助の基本と関連する福祉用具について、浴槽内手すり、バスボード、入浴用リフト等について理解させる</td> </tr> </tbody> </table>				コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	1	生活支援とICF	生活支援におけるICFの意義について、介護の意義と目的、定義と業務、介護実践におけるICF等について理解させる 生活支援におけるICFの役割について、ICFを取り入れた生活支援技術援助、アセスメントについて理解させる	2	ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスの原則について、ボディメカニクスの7原則、介護者の姿勢と安定について理解させる ボディメカニクスを活用した介護について、ボディメカニクス技術の必要性、姿勢・運動を支える身体等について理解させる ボディメカニクスの実践事例について、介護におけるボディメカニクスの応用等について理解させる	3	介護の基本技術と福祉用具の活用	移動・移乗介助の基本について、移動・移乗の持つ意味、介助のポイント、外出の持つ意味等を理解させる 移動・移乗介助の基本と関連する福祉用具について、リフト・簡易スロープ・トランスファーボード等について理解させる 食事介助の基本について、食事の持つ意味・食事の持つ身体的側面・精神的側面、栄養等について理解させる 食事介助の基本と関連する福祉用具について、ピンセットタイプ・スプーン・ストロー等関連する用具を理解させる 入浴介助の基本について、入浴の持つ意味、その身体的・肉体的側面、皮膚・筋肉の緊張緩和等について理解させる 入浴介助の基本と関連する福祉用具について、浴槽内手すり、バスボード、入浴用リフト等について理解させる
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法													
1	生活支援とICF	生活支援におけるICFの意義について、介護の意義と目的、定義と業務、介護実践におけるICF等について理解させる 生活支援におけるICFの役割について、ICFを取り入れた生活支援技術援助、アセスメントについて理解させる													
2	ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスの原則について、ボディメカニクスの7原則、介護者の姿勢と安定について理解させる ボディメカニクスを活用した介護について、ボディメカニクス技術の必要性、姿勢・運動を支える身体等について理解させる ボディメカニクスの実践事例について、介護におけるボディメカニクスの応用等について理解させる													
3	介護の基本技術と福祉用具の活用	移動・移乗介助の基本について、移動・移乗の持つ意味、介助のポイント、外出の持つ意味等を理解させる 移動・移乗介助の基本と関連する福祉用具について、リフト・簡易スロープ・トランスファーボード等について理解させる 食事介助の基本について、食事の持つ意味・食事の持つ身体的側面・精神的側面、栄養等について理解させる 食事介助の基本と関連する福祉用具について、ピンセットタイプ・スプーン・ストロー等関連する用具を理解させる 入浴介助の基本について、入浴の持つ意味、その身体的・肉体的側面、皮膚・筋肉の緊張緩和等について理解させる 入浴介助の基本と関連する福祉用具について、浴槽内手すり、バスボード、入浴用リフト等について理解させる													

排泄介助の基本について、排泄の持つ身体的・精神的役割、おむつの使用と自立支援等について理解させる

排泄介助の基本と関連する福祉用具について、ポータブルトイレ、差し込み便器、収尿器等用具を理解させる

清潔保持の基本について、清拭の持つ身体的・精神的役割、鎮静効果・爽快感等について理解させる

衣服着脱介助の基本について、衣類の持つ身体的・精神的役割、自己表現、保温等について理解させる

整容介助の基本について、整容の持つ身体的・精神的役割、爽快感、医療への抵触について理解させる

口腔ケアの基本について、その身体的・精神的意味と役割、食事のおいしさ、等について理解させる

その他福祉用具について、電動ベッド、補聴器、等各種福祉用具について理解させる

家事援助技術の基本について、調理・洗濯・掃除・被服補修・買い物支援等を理解させる

居住環境の基本について、人とすまい、照明・防音・採光・空調等について理解させる

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
介護福祉士実務者研修テキスト 4巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 通信学習(講義)																						
授業の回数 1回	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修																					
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備</p> <p>・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護</p>																								
<p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p>																								
<p>授業終了時の達成課題</p> <p>以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p> <p>・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護</p>																								
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">学習テーマ</th> <th style="text-align: center;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>利用者の心身の状況に合わせた介護と(福祉用具の活用・環境整備)</td> <td>移動を行う際の環境整備について、移動先までのルート確認、トイレの場所、車いす使用可能の可否等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>移動の介護</td> <td>利用者の心身に合わせた移動介助について、状態像の確認、バイタルチェック、天候、杖、歩行器等を理解させる 福祉用具を活用した移動、移動を行う際の留意点について、杖、歩行器、車いす、スライディングシート等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>移乗の介護</td> <td>移乗を行う際の環境整備について、身体の動き、関節の動き、スペース、腰痛予防等について理解させる 利用者の心身に合わせた移乗介助について、自立支援、ベッドから車いす・ポータブルトイレへの移乗等を理解させる 福祉用具を活用した移乗、移乗を行う際の留意点について、スライディングボード、リフト等について理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>食事の介護</td> <td>食事を行う際の環境整備について、姿勢と動作、咀嚼機能・嚥下機能の確認等を理解させる 利用者の心身に合わせた食事介助について、臥位・座位・片麻痺・視覚障害等について理解させる 福祉用具を活用した食事、食事を行う際の留意点について、自助具を活用した食事の方法を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>入浴の介護</td> <td>入浴を行う際の環境整備について、片麻痺・下半身麻痺など障害に応じた入浴方法を理解させる 利用者の心身に合わせた入浴介助について、浴槽での入浴、シャワー浴、バイタルを考慮した入浴方法を理解させる 福祉用具を活用した入浴、入浴を行う際の留意点について、在宅・施設、リフト・機械浴等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>清潔の介護</td> <td>清拭を行う際の環境整備について、羞恥に配慮した、ベッド上での、バイタルを考慮した清拭の方法を理解させる 利用者の心身に合わせた清拭介助について、全身清拭の手順、陰部洗浄等を理解させる 清拭の介助の留意点について、お湯の温度、バイタルの変化、利用者説明等について理解させる</td> </tr> </tbody> </table>				コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	1	利用者の心身の状況に合わせた介護と(福祉用具の活用・環境整備)	移動を行う際の環境整備について、移動先までのルート確認、トイレの場所、車いす使用可能の可否等を理解させる	2	移動の介護	利用者の心身に合わせた移動介助について、状態像の確認、バイタルチェック、天候、杖、歩行器等を理解させる 福祉用具を活用した移動、移動を行う際の留意点について、杖、歩行器、車いす、スライディングシート等を理解させる	3	移乗の介護	移乗を行う際の環境整備について、身体の動き、関節の動き、スペース、腰痛予防等について理解させる 利用者の心身に合わせた移乗介助について、自立支援、ベッドから車いす・ポータブルトイレへの移乗等を理解させる 福祉用具を活用した移乗、移乗を行う際の留意点について、スライディングボード、リフト等について理解させる	4	食事の介護	食事を行う際の環境整備について、姿勢と動作、咀嚼機能・嚥下機能の確認等を理解させる 利用者の心身に合わせた食事介助について、臥位・座位・片麻痺・視覚障害等について理解させる 福祉用具を活用した食事、食事を行う際の留意点について、自助具を活用した食事の方法を理解させる	5	入浴の介護	入浴を行う際の環境整備について、片麻痺・下半身麻痺など障害に応じた入浴方法を理解させる 利用者の心身に合わせた入浴介助について、浴槽での入浴、シャワー浴、バイタルを考慮した入浴方法を理解させる 福祉用具を活用した入浴、入浴を行う際の留意点について、在宅・施設、リフト・機械浴等を理解させる	6	清潔の介護	清拭を行う際の環境整備について、羞恥に配慮した、ベッド上での、バイタルを考慮した清拭の方法を理解させる 利用者の心身に合わせた清拭介助について、全身清拭の手順、陰部洗浄等を理解させる 清拭の介助の留意点について、お湯の温度、バイタルの変化、利用者説明等について理解させる
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法																						
1	利用者の心身の状況に合わせた介護と(福祉用具の活用・環境整備)	移動を行う際の環境整備について、移動先までのルート確認、トイレの場所、車いす使用可能の可否等を理解させる																						
2	移動の介護	利用者の心身に合わせた移動介助について、状態像の確認、バイタルチェック、天候、杖、歩行器等を理解させる 福祉用具を活用した移動、移動を行う際の留意点について、杖、歩行器、車いす、スライディングシート等を理解させる																						
3	移乗の介護	移乗を行う際の環境整備について、身体の動き、関節の動き、スペース、腰痛予防等について理解させる 利用者の心身に合わせた移乗介助について、自立支援、ベッドから車いす・ポータブルトイレへの移乗等を理解させる 福祉用具を活用した移乗、移乗を行う際の留意点について、スライディングボード、リフト等について理解させる																						
4	食事の介護	食事を行う際の環境整備について、姿勢と動作、咀嚼機能・嚥下機能の確認等を理解させる 利用者の心身に合わせた食事介助について、臥位・座位・片麻痺・視覚障害等について理解させる 福祉用具を活用した食事、食事を行う際の留意点について、自助具を活用した食事の方法を理解させる																						
5	入浴の介護	入浴を行う際の環境整備について、片麻痺・下半身麻痺など障害に応じた入浴方法を理解させる 利用者の心身に合わせた入浴介助について、浴槽での入浴、シャワー浴、バイタルを考慮した入浴方法を理解させる 福祉用具を活用した入浴、入浴を行う際の留意点について、在宅・施設、リフト・機械浴等を理解させる																						
6	清潔の介護	清拭を行う際の環境整備について、羞恥に配慮した、ベッド上での、バイタルを考慮した清拭の方法を理解させる 利用者の心身に合わせた清拭介助について、全身清拭の手順、陰部洗浄等を理解させる 清拭の介助の留意点について、お湯の温度、バイタルの変化、利用者説明等について理解させる																						

7	排泄の介護	<p>排泄を行う際の環境整備について、トイレまでの距離、動線、手すり、ドアの形状等について理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた排泄介助について、アセスメント、プライバシー、一人でできる事等を理解させる</p> <p>福祉用具を活用した排泄、排泄を行う際の留意点について、ポータブルトイレ、尿器等を理解させる</p>
8	着脱の介護	<p>衣服の着脱を行う際の環境整備について、季節・気候、TPOにあわせた、素材等を理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた着脱介助、着脱の留意点について、脱健着患の基本原則を理解させる</p>
9	整容の介護	<p>整容を行う際の環境整備について、目・鼻・耳、爪等医療的処置が必要な状態を理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた整容介助について、目・鼻・耳、ひげ、爪、化粧等について理解させる</p> <p>整容を行う上での留意点について、医療行為への抵触、血行促進効果と反作用等を理解させる</p>
10	口腔ケアの介護	<p>口腔ケアを行う際の環境整備について、洗面台までの移動、麻痺側、残存歯、義歯とうについて理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた口腔ケアについて、口腔体操、歯磨き、うがい、義歯の手入れ等を理解させる</p> <p>口腔ケアを行う際の留意点について、口腔の機能、口腔疾患、感染症予防等を理解させる</p>
11	睡眠の介護	<p>睡眠に伴う環境整備について、寝具の整え方、睡眠障害の種類、衛生管理等を理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた睡眠の介助、睡眠の留意点について、入眠・中途・レム・ノンレム等を理解させる</p>
12	ターミナルの介護	<p>ターミナルケアについて看取りの意義・目的、生物学的・法的な死、グリーフケア等を理解させる</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 4巻</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題50問のうち正答数35問以上で履修と見なす</p>

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程 I		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>介護過程の基礎知識</u></p> <p><u>介護過程の展開</u></p> <p><u>介護過程とチームアプローチ</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</p> <p>介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</p> <p>チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	介護過程の基礎知識	介護過程の目的について、ケアマネジメントとの違い、介護過程のプロセス、個別性等を理解させる 介護過程の意義について、介護過程の意義、自立支援、介護職の専門性等を理解させる 介護過程の展開について、信頼関係の構築、自己決定権の尊重、アセスメント、モニタリング等について理解させる	
2	介護過程の展開	目標に沿った計画的な介護について、ニーズ、欲求の段階、ケアマネジメント、ICFの視点等を理解させる	
3	介護過程とチームアプローチ	介護過程におけるチームの職種と役割について、ケアチームのメンバー、メンバーの役割等を理解させる 介護過程におけるチーム内での情報共有について、観察と記録、伝達・報告、ケアカンファレンス等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 5巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">介護過程Ⅱ</p>		授業の種類 <p style="text-align: center;">通信学習(講義)</p>	
授業の回数 <p style="text-align: center;">1回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">25時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者</p>	必修・選択 <p style="text-align: center;">必修</p>
授業の目的・ねらい 介護過程の展開の実際 利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、住居の場、家族の状況等)について事例を設定し介護過程を展開させる。 観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。			
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)			
授業終了時の達成課題 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行う事ができる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	介護過程の実際	利用者情報の収集について、インテーク時、情報源、情報収集の手段、本人から、多角的な情報収集等を理解させる アセスメントについて、ニーズの把握(ADL・IADL等)、解決すべき課題、目標、アセスメントシート等を理解させる 訪問介護計画の作成について、アセスメント結果を過不足無く、長期・短期目標、多職種連携等を理解させる 計画に沿った介護の提供方法について、利用者とのコミュニケーション、安全確保、介護計画の妥当性等を理解させる モニタリングについて、実施状況、利用者の状態変化、利用者の満足度、目標の達成等を理解させる 介護計画の見直しについて、評価、評価の視点・目的、短期・長期目標の達成深度と目安等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 5巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 スクーリング学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 45時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>①介護過程の展開 多様な事例を展開し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価</p> <p>②介護技術の評価 介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。</p> <p>授業内容 演習については、授業の目的及びテキストに沿った講義・演習</p> <p>授業終了時の達成課題 実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行う事ができる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1～15	介護過程の展開Ⅰ	アイスブレイク、介護過程の展開(アセスメント・計画の作成)の実践と評価について介護過程Ⅰ・Ⅱの復習と事例に基づいた展開の実習を行う	
16～22	介護技術の基本	介護過程の展開(実施)に係る基本的な手技の評価として、生活支援技術の単体的な手技の技術を実習・評価する	
23～32	介護技術の応用	上記「介護技術の基本」を発展させ複合的な介護の技術の評価として、事例の一日の生活から一連の生活動作を切り出し、そのケアを行わせ評価を図る	
33	介護技術の評価	介護過程の展開(実施)に係る介護技術の具体的な評価方法として、手技及び介護福祉士養成実技のような実技評価を行う	
34～36	介護過程の展開Ⅱ	介護過程の展開(モニタリング・計画の見直し)の実践と評価として、事例を元にモニタリング・計画の見直しを行い、その達成深度及び内容について評価を行う	
37～39	安全確保・事故防止、家族・職種間の連携	介護事故を予防するための観点を踏まえた「訪問介護計画書」等の作成方法について、ヒヤリハット・アクシデントの報告、リスクマネジメント等報告様式に記載させ理解を深める	

40～45

介護過程の展開Ⅱ

介護過程の展開(モニタリング・計画の見直し)の実践と評価として、アセスメント・計画時の短期・長期目標の評価を行い、その評価結果の合否を評価する

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
介護福祉士実務者研修テキスト 5巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

選択式問題50問のうち正答数36問以上で履修と見なす
試験

選択式問題100問のうち正答数70問以上で履修と見なす

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい <u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u> <u>老化に伴う身体の変化と日常生活への影響</u>			
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)			
授業終了時の達成課題 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 老化に伴う身体的な機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	老化に伴う心の変化と日常生活	老化に伴う心理的な変化として、感情・記憶・知能・性格・注意力・反応等を理解させる	
2	老化に伴う身体の変化と日常生活	老化に伴う身体的な変化として、知覚・身体的症状・疾病、ライフステージ、生活機能の低下等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 6巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題20問のうち正答数14問以上で履修と見なす	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習(講義)													
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>人間の成長・発達</u></p> <p><u>老年期の発達・成熟と心理</u></p> <p><u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>															
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">学習テーマ</th> <th style="text-align: center;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">人間の成長・発達</td> <td> 発達の定義として、生涯発達、寿命、年齢、のとらえ方、活動余命等を理解させる 発達の段階についてエリクソンの発達段階を踏まえた、高齢期の発達の段階を理解させる 発達課題について、ライフステージごとの発達課題、高齢者・障害者と地域社会・生活問題等を理解させる </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">老年期の発達・成熟と心理</td> <td> 老年期の発達課題として、老いの自覚、老いの受容、老性兆候を捉える等について理解させる 老化とそれに伴う支援の留意点について、身体機能の低下、身体疾患の増加の視点から理解させる 役割の変化とそれに伴う支援の留意点について、役割の変化と獲得、生活形態の変化、範囲の縮小等を理解させる 障害とそれに伴う支援の留意点について、障害者と地域の変動に伴い人間関係等を理解させる 喪失とそれに伴う支援の留意点について、高齢期の喪失体験、高齢期の葛藤を理解させる 経済的な不安とそれに伴う支援の留意点について、社会的役割の喪失と経済観念等を理解させる うつとそれに伴う支援の留意点について、高齢期とうつ病、高齢期とストレス等を理解させる 老年期の発達課題・心理的な課題とそれに伴う支援として、高齢者の生きがい、適応パターン、死生観とうについて理解させる </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">高齢者に多い症状・疾病と留意点</td> <td> 高齢者に多い症状について、生活習慣病、身体、循環器、呼吸器、消化器等を理解させる 高齢者に多い疾病について、代謝・内分泌系、脳神経系、運動器系、こころの病気等を理解させる </td> </tr> </tbody> </table>				コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	1	人間の成長・発達	発達の定義として、生涯発達、寿命、年齢、のとらえ方、活動余命等を理解させる 発達の段階についてエリクソンの発達段階を踏まえた、高齢期の発達の段階を理解させる 発達課題について、ライフステージごとの発達課題、高齢者・障害者と地域社会・生活問題等を理解させる	2	老年期の発達・成熟と心理	老年期の発達課題として、老いの自覚、老いの受容、老性兆候を捉える等について理解させる 老化とそれに伴う支援の留意点について、身体機能の低下、身体疾患の増加の視点から理解させる 役割の変化とそれに伴う支援の留意点について、役割の変化と獲得、生活形態の変化、範囲の縮小等を理解させる 障害とそれに伴う支援の留意点について、障害者と地域の変動に伴い人間関係等を理解させる 喪失とそれに伴う支援の留意点について、高齢期の喪失体験、高齢期の葛藤を理解させる 経済的な不安とそれに伴う支援の留意点について、社会的役割の喪失と経済観念等を理解させる うつとそれに伴う支援の留意点について、高齢期とうつ病、高齢期とストレス等を理解させる 老年期の発達課題・心理的な課題とそれに伴う支援として、高齢者の生きがい、適応パターン、死生観とうについて理解させる	3	高齢者に多い症状・疾病と留意点	高齢者に多い症状について、生活習慣病、身体、循環器、呼吸器、消化器等を理解させる 高齢者に多い疾病について、代謝・内分泌系、脳神経系、運動器系、こころの病気等を理解させる
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法													
1	人間の成長・発達	発達の定義として、生涯発達、寿命、年齢、のとらえ方、活動余命等を理解させる 発達の段階についてエリクソンの発達段階を踏まえた、高齢期の発達の段階を理解させる 発達課題について、ライフステージごとの発達課題、高齢者・障害者と地域社会・生活問題等を理解させる													
2	老年期の発達・成熟と心理	老年期の発達課題として、老いの自覚、老いの受容、老性兆候を捉える等について理解させる 老化とそれに伴う支援の留意点について、身体機能の低下、身体疾患の増加の視点から理解させる 役割の変化とそれに伴う支援の留意点について、役割の変化と獲得、生活形態の変化、範囲の縮小等を理解させる 障害とそれに伴う支援の留意点について、障害者と地域の変動に伴い人間関係等を理解させる 喪失とそれに伴う支援の留意点について、高齢期の喪失体験、高齢期の葛藤を理解させる 経済的な不安とそれに伴う支援の留意点について、社会的役割の喪失と経済観念等を理解させる うつとそれに伴う支援の留意点について、高齢期とうつ病、高齢期とストレス等を理解させる 老年期の発達課題・心理的な課題とそれに伴う支援として、高齢者の生きがい、適応パターン、死生観とうについて理解させる													
3	高齢者に多い症状・疾病と留意点	高齢者に多い症状について、生活習慣病、身体、循環器、呼吸器、消化器等を理解させる 高齢者に多い疾病について、代謝・内分泌系、脳神経系、運動器系、こころの病気等を理解させる													
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 6巻</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす</p>													

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 通信学習(講義)													
授業の回数 1回	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>認知症ケアの理念</u></p> <p><u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u></p> <p><u>認知症の人とのかかわり・支援の基本</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>認知症ケアの取組を踏まえ今日的な認知症ケアの理念を理解している。</p> <p>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</p>															
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">コマ数</th> <th style="text-align: left;">学習テーマ</th> <th style="text-align: left;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>認知症ケアの理念 " "</td> <td>認知症ケアの理念として、認知症がどのような病気なのか、失敗体験の回避等を理解させる 認知症ケアへの取り組みとして、認知症介護の基本的な考え方、進行に合わせた介護等を理解させる 今日的な認知症ケアについて、認知症ケアの歴史、パーソンセンタードケア、疾患別ケア等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>認知症による生活障害、心理・行動の特徴 "</td> <td>認知症による生活上の障害について、心理的・身体的特徴、見当識・判断力・実行機能の障害等を理解させる 認知症による心理・行動の特徴について、中核症状、BPSD、日常生活のとらえ方等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>認知症の人とのかかわり・支援の基本</td> <td>認知症の人やその家族とのかかわりについて、生活リズム、礼儀、不適切な関わり方等を理解させる</td> </tr> </tbody> </table>				コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	1	認知症ケアの理念 " "	認知症ケアの理念として、認知症がどのような病気なのか、失敗体験の回避等を理解させる 認知症ケアへの取り組みとして、認知症介護の基本的な考え方、進行に合わせた介護等を理解させる 今日的な認知症ケアについて、認知症ケアの歴史、パーソンセンタードケア、疾患別ケア等を理解させる	2	認知症による生活障害、心理・行動の特徴 "	認知症による生活上の障害について、心理的・身体的特徴、見当識・判断力・実行機能の障害等を理解させる 認知症による心理・行動の特徴について、中核症状、BPSD、日常生活のとらえ方等を理解させる	3	認知症の人とのかかわり・支援の基本	認知症の人やその家族とのかかわりについて、生活リズム、礼儀、不適切な関わり方等を理解させる
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法													
1	認知症ケアの理念 " "	認知症ケアの理念として、認知症がどのような病気なのか、失敗体験の回避等を理解させる 認知症ケアへの取り組みとして、認知症介護の基本的な考え方、進行に合わせた介護等を理解させる 今日的な認知症ケアについて、認知症ケアの歴史、パーソンセンタードケア、疾患別ケア等を理解させる													
2	認知症による生活障害、心理・行動の特徴 "	認知症による生活上の障害について、心理的・身体的特徴、見当識・判断力・実行機能の障害等を理解させる 認知症による心理・行動の特徴について、中核症状、BPSD、日常生活のとらえ方等を理解させる													
3	認知症の人とのかかわり・支援の基本	認知症の人やその家族とのかかわりについて、生活リズム、礼儀、不適切な関わり方等を理解させる													
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 6巻</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題20問のうち正答数14問以上で履修と見なす</p>													

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習(講義)										
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修									
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>医学的側面から見た認知症の理解</u></p> <p><u>認知症の人や家族への支援の実際</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>												
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コマ数</th> <th style="text-align: center;">学習テーマ</th> <th style="text-align: center;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">医学的側面から見た認知症</td> <td>認知症の原因疾患について、認知症の種類と原因、アルツハイマー型、血管性、レビー小体認知症等を理解させる 認知症の症状について、中核症状、行動・心理症状、もの忘れ、見当識障害等を理解させる 認知症の障害について、理解力・判断力・計算力・見当識・実行機能、個人に合わせた介護等を理解させる 認知症の進行による変化について、認知症と間違われやすい症状、アルツハイマー、心理ステップ等を理解させる 認知症の検査方法と治療法について、認知機能検査、行動評価尺度等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">認知症の人や家族への支援</td> <td>認知症の人のアセスメントについて、身体的・精神的・日常生活動作、家族関係、地域場面での、等を理解させる 認知症の人への地域サポート体制について、インフォーマルサポート、チームアプローチ、認知症予防の考え方等を理解させる</td> </tr> </tbody> </table>				コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	1	医学的側面から見た認知症	認知症の原因疾患について、認知症の種類と原因、アルツハイマー型、血管性、レビー小体認知症等を理解させる 認知症の症状について、中核症状、行動・心理症状、もの忘れ、見当識障害等を理解させる 認知症の障害について、理解力・判断力・計算力・見当識・実行機能、個人に合わせた介護等を理解させる 認知症の進行による変化について、認知症と間違われやすい症状、アルツハイマー、心理ステップ等を理解させる 認知症の検査方法と治療法について、認知機能検査、行動評価尺度等を理解させる	2	認知症の人や家族への支援	認知症の人のアセスメントについて、身体的・精神的・日常生活動作、家族関係、地域場面での、等を理解させる 認知症の人への地域サポート体制について、インフォーマルサポート、チームアプローチ、認知症予防の考え方等を理解させる
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法										
1	医学的側面から見た認知症	認知症の原因疾患について、認知症の種類と原因、アルツハイマー型、血管性、レビー小体認知症等を理解させる 認知症の症状について、中核症状、行動・心理症状、もの忘れ、見当識障害等を理解させる 認知症の障害について、理解力・判断力・計算力・見当識・実行機能、個人に合わせた介護等を理解させる 認知症の進行による変化について、認知症と間違われやすい症状、アルツハイマー、心理ステップ等を理解させる 認知症の検査方法と治療法について、認知機能検査、行動評価尺度等を理解させる										
2	認知症の人や家族への支援	認知症の人のアセスメントについて、身体的・精神的・日常生活動作、家族関係、地域場面での、等を理解させる 認知症の人への地域サポート体制について、インフォーマルサポート、チームアプローチ、認知症予防の考え方等を理解させる										
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 6巻</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす</p>										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I		授業の種類 通信学習(講義)													
授業の回数 1回	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>障害者福祉の理念</u></p> <p><u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u></p> <p><u>障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、基本的な障害者福祉の理念を理解している。</p> <p>障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</p>															
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">コマ数</th> <th style="text-align: left;">学習テーマ</th> <th style="text-align: left;">学習内容・方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>障害者福祉の理念 "</td> <td>障害者福祉の理念について、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン等を理解させる 障害の概念変遷、障害者福祉の歴史について、障害の基本的考え方、ICIDH、ICF等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>障害による生活障害、心理、行動の特徴 " " " " "</td> <td>身体障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、視覚・聴覚・言語障害等の生活上の障害を理解させる 知的障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、ダウン症、ノーマライゼーション、重複障害等を理解させる 精神障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、行動障害の特徴、重複障害等について理解させる 発達障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、生活上の困難、行動特徴等を理解させる 難病者等の心理・行動の特徴と生活上の障害について、その種類、主な症状、介助方法等を理解させる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>障害児者や家族への関わり・支援の基本</td> <td>障害児者と家族との関わりと支援について、信頼関係の構築、状況の理解、レスパイトケア等を理解させる</td> </tr> </tbody> </table>				コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	1	障害者福祉の理念 "	障害者福祉の理念について、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン等を理解させる 障害の概念変遷、障害者福祉の歴史について、障害の基本的考え方、ICIDH、ICF等を理解させる	2	障害による生活障害、心理、行動の特徴 " " " " "	身体障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、視覚・聴覚・言語障害等の生活上の障害を理解させる 知的障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、ダウン症、ノーマライゼーション、重複障害等を理解させる 精神障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、行動障害の特徴、重複障害等について理解させる 発達障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、生活上の困難、行動特徴等を理解させる 難病者等の心理・行動の特徴と生活上の障害について、その種類、主な症状、介助方法等を理解させる	3	障害児者や家族への関わり・支援の基本	障害児者と家族との関わりと支援について、信頼関係の構築、状況の理解、レスパイトケア等を理解させる
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法													
1	障害者福祉の理念 "	障害者福祉の理念について、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン等を理解させる 障害の概念変遷、障害者福祉の歴史について、障害の基本的考え方、ICIDH、ICF等を理解させる													
2	障害による生活障害、心理、行動の特徴 " " " " "	身体障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、視覚・聴覚・言語障害等の生活上の障害を理解させる 知的障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、ダウン症、ノーマライゼーション、重複障害等を理解させる 精神障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、行動障害の特徴、重複障害等について理解させる 発達障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、生活上の困難、行動特徴等を理解させる 難病者等の心理・行動の特徴と生活上の障害について、その種類、主な症状、介助方法等を理解させる													
3	障害児者や家族への関わり・支援の基本	障害児者と家族との関わりと支援について、信頼関係の構築、状況の理解、レスパイトケア等を理解させる													
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 7巻</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題20問のうち正答数14問以上で履修と見なす</p>													

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>医学的側面から見た障害の理解</u></p> <p><u>障害児・者への支援の実際</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</p> <p>障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	医学的側面から見た障害の理解	身体障害の原因・特性・機能の変化について、肢体不自由の定義、障害者程度等級、状態像、原因等を理解させる	
"	"	視覚障害の原因・特徴・機能の変化について、障害を引き起こす眼疾患、視覚障害の定義・等級等を理解させる	
"	"	言語・聴覚障害の原因・特徴・機能の変化について、その定義、障害等級、心理等を理解させる	
"	"	内部障害の原因・特性・機能の変化について、心臓・腎臓・呼吸器・膀胱・肝臓・腸等の疾患を理解させる	
"	"	高次脳機能障害の原因・特性・機能の変化について、その原因、大脳新皮質、失行・失認・失語等を理解させる	
"	"	知的障害の原因・特性・機能の変化として知的障害の定義、出生前診断、重複障害等を理解させる	
"	"	精神障害の原因・特性・機能の変化について、精神障害の定義、代表的な疾患等を理解させる	
"	"	発達障害の原因・特性・機能の変化について、自閉症、アスペルガー症候群、特徴等を理解させる	
"	"	難病の原因・特性・機能の変化について、主だった難病の特徴・症状、難病対策、在宅生活等を理解させる	
5	身体障害者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントと支援	<p>身体障害者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントと支援について、日常生活自立度、緊急時対応、支え手等を理解させる</p> <p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別援助計画(介護過程の理解)について本人の意向、到達目標、個別支援計画等を理解させる</p> <p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別支援計画(個別支援計画作成の意義)について、利用者からの視点で捉えるということを理解させる</p> <p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別援助計画(個別支援計画の作成)について、サービスの到達目標、緊急性、達成度、評価等を理解させる</p>	

障害者介護に関する介護過程の展開と個別援助計画(モニタリング)について、準備期間、期間設定と手続き等を理解させる

障害者総合支援における計画相談支援及び地域相談支援について障害者の相談支援体制、計画相談支援、地域相談支援等を理解させる

サービス等利用計画様式の記入例について、フェイスシートサービス利用計画、申請者の現状、モニタリング報告書等について理解させる

地域における障害者サポート体制について、訪問系、日中活動系、居住系等について理解させる

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
介護福祉士実務者研修テキスト 7巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ころとからだのしくみ I		授業の種類 通信学習(講義)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 介護に関係した身体のしくみの基礎的な理解(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)			
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)			
授業終了時の達成課題 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数 1	学習テーマ 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解	学習内容・方法 移動に関する身体の構造と機能について、身体のマカニズム、関節と可動域、体位、杖、歩行器、車いす等を理解させる 移乗に関する身体の構造と機能について、身体のマカニズム、関節と可動域、自立、求められる動作等を理解させる 食事に関する身体の構造と機能について、食べるという行為・意味、栄養素、食欲、咀嚼・嚥下等を理解させる 入浴に関する身体の構造と機能について、身体のマカニズム、関節と可動域、バイタル、機能向上・低下等を理解させる 清拭に関する身体の構造と機能について、皮膚疾患、皮膚の構造、加齢による身体機能の低下等を理解させる 排泄に関する身体の構造と機能について、排便・排尿の生理・しくみ、機能低下、正常な内蔵機能等を理解させる 着脱に関する身体の構造と機能について、体温の保持と生命、生地、保温・冷感、身だしなみ等を理解させる 整容に関する身体の構造と機能について、感覚器、整髪・洗顔、耳・眼・鼻の清潔、爪切り等を理解させる 口腔ケアに関する身体の構造と機能について、口腔の構造と機能、唾液の役割、気道と食道、義歯、誤嚥性肺炎等を理解させる 睡眠に関する身体の構造と機能について、睡眠の意味、睡眠の周期、不眠と原因、認知症と睡眠問題等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 8巻		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で履修と見なす	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) <p style="text-align: center;">こころとからだのしくみⅡ</p>		授業の種類 <p style="text-align: center;">通信学習(講義)</p>	
授業の回数 <p style="text-align: center;">1回</p>	時間数(単位数) <p style="text-align: center;">60時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者</p>	必修・選択 <p style="text-align: center;">必修</p>
授業の目的・ねらい 人間の心理 人体の構造と機能 身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点 移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護			
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)			
授業終了時の達成課題 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
1	人間の心理 人体の構造と機能 身体の仕組み、心理、認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント、観察のポ	人間の欲求について、基本的欲求、生理的欲求、社会的動機、情動と感情、感情と情緒等を理解させる 人間の学習と記憶について、学習と思考、記憶と知能、記憶のプロセス、知能テスト、パーソナリティ等を理解させる 生命の維持・恒常について、生命の営みと終わり、身体の名義、臓器の名義と位置、恒常性等について理解させる 人体の部位について、骨格系、関節、筋系、神経系、感覚器系等を理解させる 骨格について、骨の構造、骨の働き、骨の名義、骨の成長と変化等を理解させる 関節について、関節の動き、関節の部位と関節の動き、関節の可動域等を理解させる 筋肉について、横紋筋、平滑筋、筋肉の名義、骨と関節と筋等を理解させる 神経について、大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄・脳神経・脊髄神経・自律神経等を理解させる ボディメカニクスの理解について、重心、支持基底面、テコの原理大きな筋群等を理解させる 人体の構造と機能について、内臓器官(呼吸器系・循環器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌・免疫系)等を理解させる 移動時の利用者の身体・心・認知機能から総合的にアセスメントについて、インテーク時に収集すべき情報、留意すべき点、利用者の心理等を理解させる 移動時の利用者の身体・心・認知機能の状態から適切な介護について、身体状況を加味し考えなければならぬ点、留意点、リスク等を理解させる	

睡眠時の利用者の身体・心・認知機能から観察・モニタリングし、多職種との連携について、観察から得られた情報を的確に反映させる、医師・看護職員・関係職種との関わり等を理解させる

終末期時の利用者の身体・心・認知機能から総合的にアセスメントについて、インテーク時に収集すべき情報、留意すべき点、利用者の心理等を理解させる

終末期時の利用者の身体・心・認知機能の状態から適切な介護について、身体状況を加味し考えなければならない点、留意点、リスク等を理解させる

終末期時の利用者の身体・心・認知機能から観察・モニタリングし、多職種との連携について、観察から得られた情報を的確に反映させる、医師・看護職員・関係職種との関わり等を理解させる

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
介護福祉士実務者研修テキスト 8巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

選択式問題50問のうち正答数35問以上で履修と見なす

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア		授業の種類 通信(講義)・スクーリング(演習)	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 50時間(講義)13時間(演習)	配当学年・時期 6ヶ月(2ヶ月) ()は有資格者	必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>医療的ケア実践の基礎</u></p> <p><u>喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)</u></p> <p><u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)</u></p> <p><u>演習</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>演習については、授業の目的及びテキストに沿った講義・演習</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p>			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	学習テーマ	学習内容・方法	
	医療的ケア実践の基礎	人間と社会 清潔保持と感染予防 健康状態の把握 安全な療養生活 保健医療制度とチーム医療	
	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	
	経管栄養(基礎的知識・実施手順)	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	
1～3	演習	口腔内の喀痰吸引(5回)	
4～5		鼻腔内の喀痰吸引(5回)	
6～7		気管カニューレ内部の喀痰吸引(5回)	
13		救急蘇生法 (1回)	

<p>8～10</p> <p>11～12</p>	<p>胃ろう・腸ろうによる経管栄養(5回)</p> <p>経鼻経管栄養(5回)</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 9巻</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題50問のうち正答数35問以上で履修と見なす</p> <p>試験</p> <p>選択式問題30問のうち正答数34問以上で演習に進める</p> <p>各行為5回のうち1回以上完全に手順を終えれば履修と見なす</p>